

## 令和元年度 進学力を高める高校支援事業 (進学カパワーアッププログラム)

本校は「進学力を高める高校支援事業（進学カパワーアッププログラム）」の指定を受け5年目を迎えました。この事業は、県内の各学校の進学力向上に関する取り組みを支援することを目的に、青森県教育委員会が行っているものです。本校では、キャリア教育の全体計画に基づき、学力向上と上級学校への進学率向上を図るために具体的な取り組みを継続してきました。本校の今年度の事業実施の様子をご紹介します。

### 1. 【進学カパワーアップを目指して】

進学力の向上のためには、生徒自らが志望の可能性を広げようとする態度の育成が重要であり、その達成のためには多様な学問領域に触れる機会を設けることが必要であると考えています。八東生(本校生徒)が主体的に進路選択を進める上で、本校では5年前から、1学年を中心に「夢ナビライブ仙台」（株式会社フロムページ主催／文部科学省後援）に参加しています。学問に対する関心と進学意欲の高まりにつなげるスタートと位置づけ実施しています。1学年では、「夢ナビライブ仙台」のほかにも、大学見学会、探究活動として学部学科研究や地域問題解決研究、そしてその発表会を行っており、年間を通してこれらに連続的に取り組むことでキャリア形成力を高めています。

### 2. 【事業の内容】

今年度、本校では「キャリア教育の全体計画」の見直しを図り、キャリア教育目標を、以下のように定めました。

- (1) 仕事上の課題を発見する力と、課題解決のために各種機関（大学・企業等）の取り組みを理解する力を養う。
- (2) 自己を理解する力と、学ぶこと・働くことの意義をふまえ様々な仕事を理解する態度を養う。

目標達成に向け、1学年では、自身と社会の接点を学問領域を通して見出し社会参画意識の向上につなげるための方策を次のように展開しました。

テーマ「自己啓発心の育成」と「学問研究の深化」

- (1) 東北地区大学見学会（7月30日～7月31日）参加者103名  
（東北大学・宮城教育大学・宮城大学）
- (2) 弘前大学見学会（8月10日）参加者153名
- (3) 青森県立保健大学見学会（8月9日）参加者17名
- (4) 「夢ナビライブ仙台」への参加（10月5日～6日）  
（会場：宮城県仙台市「夢メッセみやぎ」）参加者78名
  - ・大学説明会
  - ・学問講義ライブ
  - ・大学教員によるガイダンス

## 「夢ナビライブ仙台」～参加生徒の感想～

「自分の夢は放射線技師になることだが、その役割と責任の重さを知るよい機会になり見識も広がった。技師には深い知識と高い技術が求められる。高校での学習をベースに大学の学びにつなげる必要を感じた。夢を現実のものになりたい。」

「講義を受け、理学療法と作業療法に求められる適性と仕事の内容を理解することができました。また、患者さんを元気にし、社会に復帰してもらうためには、まずは自分自身を管理する能力を身に付ける必要があります。心を健康にした上で患者さんに関わらなくてはならないと気づくことができました。」

「食中毒とアレルギーに関する講義はとても興味深いものでした。アレルギーを起こす原因や背景にあたることを知り、今まで以上に食料と環境問題に関して意識を高めることができました。」

「国際学と児童学に初めてふれることができました。子どもに寄り添うことと子どもの教育とを比較することで、保育士と幼稚園教諭の役割の違いを学びました。外国にルーツを持つ子どもが増える現状の中、今後は、教育・心理学・子ども・国際をキーワードに調べ学習を行い、各大学で学べることの違いも比較していきたいと思います。」

「講義を通して、日本の農産物を世界に輸出することは、生産者にとっても消費者にとっても多くのメリットがあることが分かった。今後は青森県の食産業について調べて、どのような方策をとれば発展につながるかを考えていきたい。」

「バイオテクノロジーと再生医療について学ぶことができた。同時に『生と死』についても考えさせられる機会となった。」

「人文社会学部の講義で、『知識がないから分からない。考えなければいつまでもできるようにならない。考えないから分からない。考えてみれば分かるかもしれない。』の言葉が印象的でした。自分で考えて行動することが大事なのだと教えられた講義でした。」



### 3.【本事業に関連した取り組み】

事業実施後に、事業成果をより高めるために、以下の取り組みを展開しました。

- (1) 校外体験学習（9／4） ※1学年と2学年が実施  
校外体験学習発表会（9／17）
- (2) 3学年進路決定者ガイダンス「先輩から後輩へ」（1／28）
- (3) 課題研究（3学期：総合的な探究の時間）  
※課題研究発表会（3／17予定：休業措置により中止）

#### ＜それぞれの取り組みの概要・生徒の感想＞

##### (1) の概要

社会参画意識の高揚を目指し、職業と学問分野の関連を知るために企業や施設における校外体験学習を実施しました。各職業の業務内容や社会的役割を学び、その課程で研究テーマを設定し、職業の社会的意義や抱えている諸問題の研究発表を行っています。

体験学習訪問先事業所の分野 ※（ ）内は訪問事業所数

- |            |           |              |            |
|------------|-----------|--------------|------------|
| 1 医療(4)    | 2 社会福祉(1) | 3 教育(4)      | 4 旅行代理店(1) |
| 5 ホテル(1)   | 6 官公署(5)  | 7 図書館・博物館(3) |            |
| 8 公施設(2)   | 9 報道機関(2) | 10 通信関連(4)   |            |
| 11 建設・他(5) |           |              |            |



#### ～生徒の感想～

「学芸員の仕事のやりがいと大変さを知ることができました。単に学術的研究にとどまらず、海外に向けて情報発信のために外国語で解説書や案内文を作成しており、歴史学や考古学の知識だけでなく語学力も発信力も必要なのだと感じました。地域の歴史や文化は、郷土の資源であり財産であることが分かり自分たちの住む場所をもっと知ることと同時に、他の地域の方に知ってもらうことも大切だと感じました。」

## (2) の概要

A O 推薦入試で大学に合格した 3 年生 9 名が、後輩に向け合格体験談を語りました。

### ～生徒の感想～

「先輩のお話を聞いて、自分はまだまだ取り組みが足りないのだと改めて自覚することができました。先輩は学習したことやイベント等に参加したこと、活動したことのすべて記録し、資料も保管していて、自己PRや学修計画に活かしているのだと知りました。自分は、授業、テスト、全活動の取り組み方を変えて意味のあるものにしなければならぬと感じました。」

## (3) の概要

2030年問題「日本の人口の1/3が高齢者になる」に関連し、次の研究テーマから1つを選択。テーマごとにグループを編成し、クラス内で発表を行いました。

### 研究テーマの一覧

- ①労働人口が減少する
- ②GDPが減少する
- ③過疎地域が増加する（地方都市の衰退）
- ④年金問題（給付年齢の引き下げ、現役世代の負担増）
- ⑤医療従事者の不足（医師の負担増）
- ⑥介護問題（老老介護・介護施設の不足）
- ⑦高齢者の貧困



### ～テーマ「①労働人口の減少」を選択した生徒のコメント～

「労働人口の減少は、地方経済を維持するためにはとても大きな問題だと思います。建設業在職者の若年層が減少していることに着目し、若年層の職業選択の背景にある3Kの意識と賃金・長時間労働等の問題を取り上げることにしました。リーマンショック後の建設需要激減により離れていった職人が建設業に戻ってこないこともあり、全産業の従事者数と建設業の従事者推移を比較することから研究を進めていきます。」



～テーマ「⑥介護問題」を選択した生徒のコメント～

「介護の現場で急増している老老介護の問題を取り上げることになりました。そこに焦点をあてて高齢社会について研究していきたいです。在宅での介護を希望し、他人に世話になりたくないと考える高齢者とその家族にとって何が必要なのか、どのような対応ができるのかについて、おじいちゃん・おばあちゃん目線で考えたいと思います。」



#### 4. 【本事業を終えて】

1学年の入学直後の進路志望調査で、大学進学志望者は172名（学年全体数の75.1%）であったのに対し、事業実施後の同調査では、大学進学志望者は196名（85.6%）に増加し、進路未定と回答していた生徒は29名から19名と減少する結果となりました。全体の志望傾向としては国立大学の志望が多くなっていますが、地元の大学や大学見学会やオープンキャンパスに参加した大学に限定されることなく、北海道から九州・沖縄まで全国へと広がっています。大学見学会、夢ナビライブ仙台の参加、総合的な探究の時間における学問研究、さらに2030問題の課題研究に連続的に取り組んだことにより、主体的な学習態度と社会参画意識が向上し、自身を社会につなげる姿勢が高まっているものと捉えています。

今後も今回の事業の成果を活かし、生徒一人一人が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見出しながら、高い進路選択の意識を持ち、自己の能力の育成に励むことができるよう支援を継続していきます。

（令和2年3月 進路指導部）